

2026

3.4 (水)

12:10
12:50

12:10-12:15

◆発表者紹介

12:15-12:40

◆プレゼン

12:40-12:50

◆質疑応答

オンライン
(Zoom)

登録はこちら▶▶

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_07QE8GXHSKCbipsqCE8YYQ

【技術支援】九州大学 Q-AOS

九州から東方正教を考える： 近代の「敗者」とポスト・リベラルの価値観



Key Words

東方正教

ポスト・リベラリズム

犠牲者意識ナショナリズム

「宗教ゼロ」

高橋 沙奈美 准教授

人間環境学研究院 人間科学部門

浜松生まれ、岐阜育ち、京都大学文学部で修士課程まで学んだあと、ロシアについてより深く学ぶため、2006年、北海道大学大学院スラブ・ユーラシア研究センターの博士課程に入学しました。のべ3年間、ロシアの地方都市で、社会主義時代に博物館として展示された宗教文化財について調査し、博士論文に仕上げました。2018年、『ソヴィエト・ロシアの「聖なる」景観』と題して北海道大学出版会より上梓、第8回地域研究コンソーシアム登竜賞を頂きました。2019年に、九州大学人間環境学研究院に着任。2023年には、ウクライナ戦争を正教会の視点から描いた『迷えるウクライナ』（扶桑社新書）を発表し、日本ロシア文学会選考委員特別賞を頂きました。

本報告は、九州における東方正教会の受容過程を起点に、この伝統的キリスト教が現代社会で持つ思想的ポテンシャルについて考えます。近年、学生と共に行った調査により、九州地方の正教信仰は、西南戦争で敗北した鹿児島士族から始まった可能性が見えてきました。この背景には、正教が持つ儒教的思想との親和性や、強固な伝統保守性が指摘されます。今日、エマニュエル・トッドが指摘する「宗教ゼロ」の西洋諸国において、正教はリベラリズムへのオルタナティブとして再評価されつつあります。日本近代化の周縁であった九州の事例から、国民国家や伝統的価値観と結びつく正教の現代的意義を問い直すことを試みます。